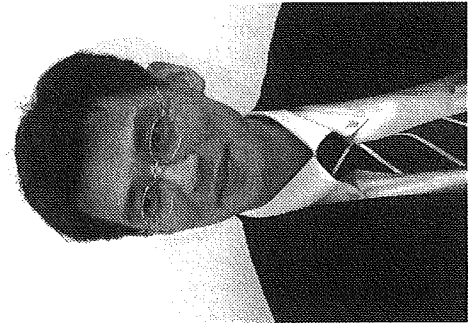


◆ 松崎 浩介、あらいゆうすけ
 平成12年筑波大学大学院修了。同年厚生省入省。15年間
 山形市・16年岡山県赤松山保健所、17年厚生省三宮市保健所
 五木保健所保健所長、向年岡山県保健所、18年より
 筑波大学保健所長、博士（食文化学）、厚生労働省科学研究所
 「食育を推進した健康づくり」至善賞特別賞、平成20年「食育研
 究」主任研究員



それぞれの部長たちは解決し切れ
 ない部分が出てくる。そういうときに
 連携すれば、少しづつ目標に近づける
 可能性がある。この意識を通して感
 じました。ですから、まずは一緒に取
 り組んでみる。そのうえでまた改善を
 える。そういうことを続けて、関係
 者のもとに足跡を置いていく。関係
 性もお互いの信頼、意識レベルを同じ
 にすることが大切ですね。

河合 食育政策の一環のよきは、地域
 によって食文化の形がさまざまとい
 うことです。ですから、それぞれの
 地域で工夫を凝らし取り組んでみる
 ということが大切なのだろう。今日
 は、それが実現できました。

関 多分野との連携をキーワードに取
 り組んでいますが、みなさんのお話を

とろとろが、国
 の動きはかがで
 すか。
 関所 食育推進基
 本計画は、平成十
 八年から二十年
 を一つの期間とし
 ており、あと二年
 と少しは残ってい
 るにたっています。
 私どもでは、
 十九年に食育推
 進特別委員会を立ち上げ、横断的重
 ね、間もなく審議過程の取りまとめと
 して中間報告が出されます。計画
 では、食育推進目標を示してしま
 いますので、それが現状はどうなのか、も
 しろまだできていないのかを、定
 性的な部分を含め、委員会として
 取りまとめる報告いただく予定です。

**可能性豊かな食育であればこそ
 企業や市民の賛同が得られる**

荒井 さし、時間もなくなってきました
 ため、最後に一言ずつお話しします。
 松崎 農林問題は地産地消、健康増進
 関係者は政策での改善、また各関
 係者は子どもの健全育成や学力向上と
 いった目標を掲げています。しかしし

年 から五〇％以上増えているとい
 う数値目標を設定したのですが、三島
 市はもともと環境緑地の取り組みが運
 んでいて、その食育推進をいち早く
 中止することになり、すでにこの報告
 は八〇％となりそうです。計画策定時
 の健康増進課長は、環境政策部門にい
 たので、この点は非常に適切な目標の
 立ち方とそのクリアのための方法を
 お持ちなのですが、私共が行くべき健康
 面に關するプロセス情報については、
 いま模索中というところです。

荒井 食育に関する情報については、
 たまには肥満者を一〇％減らす、野菜
 の摂取量を五〇グラム増やす、という
 目標を立てても、そこにターゲットに
 持つけるのは非常に難しい。肥
 満者の割合が二〇％減らすのに数年
 年かかっているわけですから、それを
 一年、二年で達成するのは困難です。
 ですから、意識レベル、行動レベルの
 変化を導くという方向で、肥満を
 減らしたいと思う割合を、運動して
 る人の割合という目標をモニター
 することが重要ですね。そうしないと
 肥満者の割合が下がらないうら
 だけ、効果はなかなかないうら
 れが訪ねられてしまいます。それは、もっ
 たないですね。

国の食育推進計画が若者に向かう

このようになったら無敵な子どもにな
 りますが、そう言っている方が
 います。食育って大事なことと意識
 があっても、意識をどうやって
 られるか、思慮深く通ってあげること
 が大事なんだと改めて思います。
 一人ひとりが、いろいろな食育の活動
 を通して、生涯健康で過ごすことが
 大切なんだと意識し、それが食育で
 親から子へ伝わっていく、という流れ
 が重要ではないかと思っています。これ
 から子どもたちに伝いつけたいと、
 頭を悩ませています。

関所 食育という仕事に携わって改めて
 感じているのは、本当に幅が広く、奥が
 深いなということです。食は人生を
 支えているだけではなくてはならない
 ですから、そこを気にかけていくの

一、健康増進部門の健康づくりの
 変化を推進します。特定食育 保健指
 導の四〇以上の方はフォローできま
 すので、私たちの事業ではほとんどの
 の若い人をターゲットとして、メ
 タボリック症候群の予防を挙げていただ
 き、個人および集団としての効果目標
 を示してこう考えています。

**意識レベル、行動レベルでの
 変化のモニタリングを不可欠**

荒井 三島市ではどうお考えですか。
 平澤 先生がお話した「家庭内での
 日の習慣については、数値目標は
 立てられません。というも、食育は
 いろいろなターゲットと連携をはかり、
 浸透していった段階ではじめの目標が
 出てくるのだというところで、必ず
 数値目標を立てませんでした。

ただ三島市では、小学生、中学生の
 肥満児が多量傾向ですので、その部分
 については、肥満傾向の児童、生徒の
 割合の減少率八、三〇（平成十八年）
 を六、五％以下にするという数値目標
 を立てています。それを食育推進メ
 ーソルの中間目標などを見ながらモニ
 タリングします。また「環境を未来に引き
 継ぐために」という目標も掲げ、その
 なかで「買物袋を持参しているの
 割合」を現在の二五・五％（平成十九

環境を未来に引き継ぐために

問いて、顔の完全関係を頭を懸
 てつくっていくことがいかにか大
 切であるか、これを改めて意識できま
 した。今後もしも環境問題が深刻
 になります。意識をどうやって
 られるか、思慮深く通ってあげること
 が大事なんだと改めて思います。
 一人ひとりが、いろいろな食育の活動
 を通して、生涯健康で過ごすことが
 大切なんだと意識し、それが食育で
 親から子へ伝わっていく、という流れ
 が重要ではないかと思っています。これ
 から子どもたちに伝いつけたいと、
 頭を悩ませています。

関所 食育という仕事に携わって改めて
 感じているのは、本当に幅が広く、奥が
 深いなということです。食は人生を
 支えているだけではなくてはならない
 ですから、そこを気にかけていくの

表2 「やましろ食育プロジェクト」の食育推進における
 取組時の意識変化の分析結果

| 項目 | 全数 318名 | 性別 |
|-----|---------|--------------|
| 親方 | 65 | 男性 |
| | 43 | 女性 |
| | 29 | 子どもと一緒に取り組んだ |
| | 3 | 子どもと一緒に取り組んだ |
| | 1 | 家族だけで取り組んだ |
| | 123 | 家族だけで取り組んだ |
| | 69 | 家族だけで取り組んだ |
| | 88 | 家族だけで取り組んだ |
| | 50 | 家族だけで取り組んだ |
| | 42 | 家族だけで取り組んだ |
| 子ども | 34 | 男性 |
| | 32 | 女性 |
| | 19 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 17 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 17 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 15 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 12 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 11 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 10 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 9 | 家族と一緒に取り組んだ |
| 保護者 | 24 | 男性 |
| | 22 | 女性 |
| | 21 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 13 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 8 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 7 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 3 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 2 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 1 | 家族と一緒に取り組んだ |
| | 0 | 家族と一緒に取り組んだ |

| 項目 | 全数 318名 | 性別 |
|----|-------------|----|
| 24 | 男性 | |
| 22 | 女性 | |
| 21 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 13 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 8 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 7 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 3 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 2 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 1 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 0 | 家族と一緒に取り組んだ | |

| 項目 | 全数 318名 | 性別 |
|----|-------------|----|
| 24 | 男性 | |
| 22 | 女性 | |
| 21 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 13 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 8 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 7 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 3 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 2 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 1 | 家族と一緒に取り組んだ | |
| 0 | 家族と一緒に取り組んだ | |

てしまおうではないかという懸念を持
 てる。ですから、民間はこういうことを
 してはならない、行政はこの部分だけ
 やればよいというのではなく、どう
 かがりを持って、民間を支援して、ど
 ろから多くの人に賛同を促進して
 ほしいと思います。案で一緒に食育を
 するときに、お父さんが今日は会社で
 こんな食育をやったが、お母さんは
 地域でこんなことを教わったこと
 が、お母さん、お父さん、お母さん
 習ったよ、園長さんがお母さんが人
 形成と心身の健康の推進のために食育
 をやっていると、ということが大切す
 ら、何でもいらい、できるよか
 ら取り組んでほしいと思います。

荒井 当初、食育プロジェクトで終わ
 ってしまうのではないかと懸念を持
 っていました。しかし、みなさんのお
 話を聞いてみると、そうではないのだ
 と改めて感じました。食育は何がよ
 くわからなく、何を目指している
 のかと言われることがありますが、多
 面的なところ、つながりがない
 のかもしません。それは良い面
 でもあります。食育推進が盛んで、
 食育推進できるイメージが、だ
 から三企業や市民にも関心され、取
 り組んでいるのだと思います。こ
 ういった面を上手に活かしながら食
 育を推進、その結果、地域の健康問題
 が改善されることを目指してまいり
 ます。そのためには、みなさんをお支
 取り願っていただくことが大切であらう
 とお考えをいただきたいと思います。

最後にありますが、私共保健
 では今更し紹介した取り組みを含め、
 地域に呼び取り組みを推進し、健
 康づくのための「食育推進メ
 ーソル」(URL: <http://www.nutrition-shokoku.or.jp/index.htm>)とし
 てインターネット上で公開されて
 います。取り組み情報を共有し、相
 互に刺激していただき、地域の食育活
 動の推進に役立てることを目指して
 います。是非ともご参加いただくと
 思います。本日は、ありがとうございました。

厚生労働科学研究費補助金
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業

食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究
平成19年度～21年度
総合研究報告書

平成22年3月発行

編集・発行

研究代表者 荒井 裕介

独立行政法人国立健康・栄養研究所

〒162-8636東京都新宿区戸山1-23-1

TEL 03-3203-5721

URL <http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>

